

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

(a) めといふものこそ、<sup>(1)</sup> 男の持つまじきものなれ。「いつも独り住みにて」など聞くこそ、<sup>(2)</sup> 心にくけれ、「誰がしが婿に<sup>(1)</sup> なりぬ」とも、また、「如何<sup>(2)</sup> なる女を取り据えて、相住む」など聞きつれば、無下に心劣りせらるるわざなり。<sup>(b)</sup> ことなる事なき女をよしと思ひ定めてこそ添ひゐたらめと、苟しくも推し測られ、よき女ならば、<sup>(3)</sup> らうたくしてぞ、あが仏と守りゐたらむ。たとへば、<sup>(4)</sup> さばかりにこそと覚えぬべし。まして、家の内を行ひ治めたる女、いと口惜し。子など出で来て、かしづき愛したる、<sup>(5)</sup> 心憂し。男なくなりて後、尼になりて年寄りたるありさま、亡き跡まであさまし。

いかなる女<sup>(3)</sup> なりとも、明暮添ひ見んには、いと<sup>(6)</sup> 心づきなく、憎かりなん。<sup>(7)</sup> 女のためも、<sup>\*</sup> 半空にこそならめ。よそながら時々通ひ住まんこそ、年月経ても絶えぬ仲らひともならめ。<sup>(8)</sup> あからさまに来て、泊り<sup>(c)</sup> ゐなどせんは、珍らしかりぬべし。

〔徒然草〕

\*半空||どちつかずで落ちつかない状態。

問1 傍線部(a)～(c)のひらがなを、それぞれ漢字一字に直せ。

問2 傍線部①～③の「なり」「なる」と同じ用法のものを、それぞれ次の中から選べ。

- (ア) 竹取泣く泣く申す、この十五日になむ、月の都よりかぐや姫の迎えにまうで来なる。
- (イ) 歌のかたち、さまざまになりけり。
- (ウ) 声のありさま、聞こゆべうだにあらぬほどにいと静かなり。
- (エ) 世には、心得ぬことの多きなり。

問3 傍線部(1)・(2)・(5)・(6)の意味を、前後の文脈にあう形で記せ。

問4 傍線部(3)・(8)を、主語を補って現代語に訳せ。

問5 傍線部(4)について、次の問に答えよ。

- ① 「くだろう」に相当する語句が省略されているが、どこに入るか書け。またその相当する語句を二単語で書け。

- ② 「さばかり」の内容をはっきりさせて、現代語訳せよ。

問6 傍線部(7)の理由と解決策を、作者はそれぞれどのように考えているか、簡潔に説明せよ。

---

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

\*おちやう 応長の頃、伊勢国いせのくにより女の鬼に成りたるを a のほ りて上りたりといふ事ありて、その頃廿日はつかばかり、日ごとに、京・白川の人、鬼見にとて b 出で惑ふ。「昨日は さいだいじ 西園寺に参りたりし」、「今日は いん 院へ参るべし」、「(1) ただ今はそこそこに」など言ひ合へり。まさしく見たりといふ人もなく、虚言そらごとと云ふ人もなし。 c 上下、ただ鬼の事のみ言ひ止まず。その頃、東山より安居院あぐみいん辺へ (2) まか 罷り侍りしに、四条よりかみさまの人、皆、北をさして走る。「一条室町いちじょうむすまちに鬼あり」と d ののしり合へり。今出川いまでがはの辺へんより見やれば、\* 院いんの御棧敷おんさじきのあたり、更に通り得うべうもあらず、立ちこみたり。はやく、跡なき事にはあらざめりとして、 ア や 人を遣りて見するに、 イ おほかた、逢へる者なし。暮るるまでかく立ち騒さわぎて、果はては鬨とうじやう諍じやう起りて、 e あさましきことどもありけり。その頃、おしなべて、 ふつかみか 二三日、人のわづらふ事侍りしをぞ、かの、鬼おにの虚言せつごは、 このしるし を示すなりけりと言ふ人も侍りし。

〔徒然草〕

\* 応長 西暦一三一年四月二十八日に改元され延慶から応長となった。  
 \* 西園寺・院 西園寺は京の西北、山城国葛野郡衣笠村北山にあった。現在は金閣寺がある。院は上皇の御所。  
 \* 院の御棧敷 上皇が賀茂祭見物のため常設していた棧敷席。

問1 二重傍線部 a ～ e について、語句の意味をそれぞれ答えよ。

問2 傍線部(1)、(2)について、省略されている語句を補ってわかりやすく訳せ。

問3 傍線部アの理由を本文に即して五十字程度で説明せよ。

問4 傍線部イを口語訳し、さらに本文全体の叙述からこの章段の主題を簡潔に四十五字以内で述べよ。

問5 本文最終段落の「このしるし」とはどういうことか、十字以内で説明せよ。

---